

学校目標		建学の精神である「みんなから愛され、信頼される人」「社会に役立つ人」「勤労を尊び前進する人」を育てることを探求する。				達成度		A (ほぼ達成 (8割以上)) B 概ね達成 (6割以上) C 変化の兆し(4割以上) D 不十分 (4割未満)		
本年度の目標		(1) 教育理念及び教育方針の徹底 (4) 安心・安全な教育環境の整備		(2) 基本的マナーの習得と生徒指導の徹底 (5) 「六つの生徒指導心得」の徹底		(3) 進学実績と進学率の向上 (6) コミュニケーション力の向上				
評価項目	現状	具体的な方策	評価指標	経過・達成状況等	達成度	次年度の課題と改善策	学校関係者評価	実施日	令和2年6月17日	
1	教員授業力強化の取組み 教育環境の充実	・生徒(コース)により予習、復習に対しての姿勢に差が見られる。 ・昨年度よりもさらに入試基準を上げたため、学習能力及び意欲の高い生徒が増えている。 ・不審者対応として監視カメラが充実し、今後さらにかかされるよう監視している。 ・災害対策においては、さらなる意識の共有化、備蓄品の充実が求められる。	・基礎学力の底上げ ・生徒の関心をひくような授業の組み立て ・予習復習の意義の徹底 ・教科指導部との連携により、スタディサプリ、DM英会話を有意義に活用する ・長期休暇中の課題配付およびその確認を行う ・日々の施設、備品安全管理点検 ・避難訓練の実施 ・災害時の非常食確保 ・救急救命講習の実施 ・節電の奨励	・基礎学力の定着 ・教科への興味、意欲の向上 ・学習習慣の定着 ・授業満足度の向上 ・授業力の向上 ・試験前の学習習慣の定着 ・防災対策(備蓄品を含む)の確保 ・環境衛生面の安全の確保 ・美観等の確保	・スタディサプリの実施が定着し、学力向上が期待できる ・朝夕ともに自習室で学習する生徒が増加している ・定期試験前の学習に教員に質問する生徒が増え、学習への意欲の向上が感じられる。 ・火災報知機、非常放送、消火設備、汚水水槽の定期点検の実施 ・校舎施設、備品の安全点検の実施 ・空気の照明、照度、飲料水の定期点検の実施 ・災害対策備蓄品の確保 ・通称訓練および防災意識の徹底 救急救命講習の実施	B	女子学年が卒業し、全学年が共学となる。この学年は、保育進学コースを除き大学進学を前志に入学してきたことから、学力向上、希望大学合格に今までよりも強い意志を持つ。それに対応できるよう環境を整える必要がある。校舎設備に関しては、新校舎および内装を新装したものを維持するうえで使用上の留意点を教師・生徒に伝えていく必要がある。特に次年度は多くの新採用があるため、授業指導力の向上にもあつちんだが、学校施設の使用という視点でも共通理解を持ち、それを生徒に伝えることが必要と考える。	全体が見て、自己評価をする際にももう少し数値化をすることによって、評価の観点が明確化されてわかりやすくなるのではないのでしょうか		
2	進路指導の充実	・3年生は最後の女子高であり、全体では70%以上が大学・短大への進学を希望している。 (保育進学コース2名以外は、大学・短大を希望) (調理・デザインコースは、大学・短大希望35%) ・関係系の大学を希望する生徒が増加している。 ・大学・短大現役進学率の向上を目指しており、同時に上位大学の合格数増加については5カ年計画で進めている。 ・進学前に単 願職希望者は9名と減少している。 ・大学進学が増加による上位校への推薦・AO対策の必要性が今までより求められる。 ・保護者の大学進学への意識が高まってきている。	・進学校への転換について、教員意識の向上を図る。 ・各学年会における目標値の設定 ・目標値における中期の検証と対策 ・的確な時期の講演会、進路イベントの実施 ・1年生は「職業を知る」2年生は「学びの分野を知る」をテーマに生徒の視野を広げるための進路指導を推進する ・3年間で10回の面談を実施。年度末に生徒の満足度を確認 ・受験指導の徹底(一般受験・推薦受験・AO受験) ・教科指導部との連携を推進。教科分析会の開催 ・すべての生徒を見捨てない。大事にする指導の徹底 ・進先との連携強化 ・データ関係の構築(受験者入力・受験結果入力、模試データ) ・保護者への対応(面談、説明会等)	・目標値を設定する。 A目標-最大限達成可能な目標 B目標-最大限改善可能な目標 ・3年大学・短大現役進学率 A目標 75%、B目標 70% ・2年大学・短大希望者目標値 A目標 85%、B目標 80% ・1年大学・短大希望者目標値 A目標 85%、B目標 80% ・上位大学の合格目標 国公立・早慶上理 10名 GMARCH・成成慶国 50名 日東駒専・大東亜帝国 60名 専門学校、就職希望者の合格	・3年生の大学・短大現役進学率は74.7%であり最大目標まであと1人。次年度は80%以上を目指す。 ・1・2年生の大学・短大希望者目標については、最大目標を大幅に超え、1年91.6%・2年92.3%となった。 ・3年生の特選を中心とした上位大学については、宇都宮大学、都留文科大学、創価公立大学など国立大学4名合格、早稲田大学3名、東京理科大学1名、明治大学1名、法政大学8名、中央大学9名、獨協大学11名、國學院大学2名、明治学院大学1名、成城大学1名、埼玉医科大学3名、東洋大学6名、駒澤大学1名、専修大学1名、東京農業大学2名合格した。 ※国公立・早慶上理各合格 ※GMARCH・成成慶国36名合格 ※日東駒専・大東亜帝国37名合格 ※専門学校6名、就職合格 以上3月10日現在	B	・男女共学期生であり、結果が求められる年度となる。よって、上位大学の合格数目標を下記に設定する。 ※大学・短大現役進学率85%以上(大学現役進学率70%以上) ※国公立・早慶上理20名 ※GMARCH50名 ※成成慶国国公立50名 ※日東駒専・大東亜帝国100名 ・1・2年生は大学進学を増加させ、大学希望者目標を80%以上に設定する。 ・小論文指導を徹底し、上位大学合格を目指す。 ・3年間で10回の面談を実施する。 ・進路情報センターとしての進路指導室の活用を促す。また、受験結果入力システムの完成を目指す。 ・高大連携プログラムの実施、進路相談の実施、キャリアアップセミナーの実施など、進路行事の充実を図る。	難関大学等に入れる人数を増加することに、目標値を達成され、自己評価がBからAになるように指導したい。	共学化初年度の進学実績向上に期待します。	
3	生徒指導の充実	・ほとんどの生徒が挨拶をしているが、挨拶行為(しつかりと声を出すということ)には抵抗感を示す生徒が若干見受けられる。 ・規範意識や交通安全に対する意識を希薄な生徒は殆ど見受けられなくなった。 ・遅刻者に関しては、5分前登校にギリギリの生徒が若干いるものの、全体的には遅刻回数を積極的に減らすこととする生徒の割合が非常に高くなった。 ・学校生活を意欲的に送ることのできる生徒は減ってきている。特に1学年からは治りづらい。 ・1、2学年の男女間のトラブルは殆どなく、互いに尊重し合う関係性を保っている。	・生徒会代表者による挨拶運動を行い、生徒間の挨拶の活性化及び徹底を図る。 ・全職員による積極的な玄関、廊下での挨拶の徹底、外部からの来校者に対し、生徒からの自主的な挨拶の徹底。 ・玄関と教室での遅刻者の二重チェック。遅刻率を毎月発表することにより、教室遅刻率0.3%(40人級で2人/月)の目標値をクラス、学年毎に徹底させる。 ・生徒し得・夏休みの心得を全校生徒に配布、指導することにより、長期休暇中の生徒のあり方をLHRで徹底させる。 ・クラブ活動の積極的参加と共に、継続的に行き活動させる。 ・通学路における要所における交通安全指導。	・遅刻、欠席者の減少 ・遅刻行動の減少 ・活気のある学校生活 ・頭髪整髪剤塗布者の減少 ・退学者の減少 ・自転車通学違反者の根絶 ・交通ルールの遵守 ・課外活動の活性化 ・通学路の環境整備	・生徒会代表者による挨拶運動および登校時の玄関(生徒通学門)での挨拶行為がさらに増加してきた。 ・学期ごとに行われる全体の頭髪等確認指導率より全体的に落ちついており、問題対象となる女子生徒の人数は殆どない。男子生徒に初めての手帳より細かい部分での指導を要したのが、大きな問題点ではない。 ・警察、鉄道警察隊と連携をとり講師を依頼して防犯・交通安全指導を取り入れている。 ・専任カウンセラーによる精神的なケアにも力を入れている。 ・自転車マナーアップの推進校としての意識の向上を図っており、登下校時における指導対象者もほとんどいない。	A	・担任による生徒指導の徹底及び学年主任との連携を図る。 ・8時25分(始業5分前)登校の徹底。 ・登下校時、校舎内ならびに来校者に対する挨拶の徹底を図る。 ・遅刻、欠席者の状況把握と共に早期指導重点を置き、遅刻行動や退学者の抑止が妨がらぬように努める。 ・友人関係の変化にも着目し各学年ごとの二者面談、6月、11月に行ういじめ防止アンケートの実施により、いじめ未然防止に積極的に取り組む。 ・学校行事、課外活動への参加を促し、活気ある学校にする。	・ある特定のクラスの遅刻者の数が多い点が気になります。保護者の立場からみれば、何かクラスに問題があるのではないかと思っています。 ・併せて遅刻が増加しているのに自己評価がAというのには驚かされます。		
4	教科指導の充実	特選/特進コースの生徒について ・小テストや定期試験など、範囲の限られた試験では高得点を取れるが、模擬試験や検定試験になると振るまいが減少している。 進学/保育コースの生徒について ・中学校学習内容や基本的な内容に関して再学習を必要とする生徒も存在する。 ・計画的に学習する習慣が身につけていない生徒もいる。	・毎日小テストを徹底して行い、基礎学力を定着させると同時に、「範囲を広く設定したまとめのテスト」を定期的に行う。 ・スタディサプリと連動した授業を展開し、効率良く学習を行う。 ・DM英会話を積極的に活用してもらうために、テキストのコピーを図書室に置く。 ・中・高学年による模試対策を意識した「土曜講習」を充実させる。 ・「前夜授業」を用いて、前年度の学習内容を徹底して復習することで、基礎学力を定着させ模試の偏差値向上を図る。 ・Classi・eポートフォリオを用いて定期試験に自分自身を振り返るようにすることで、学習意欲を高める。	・各模擬試験の途中経過(前年比と前回比)を定点観測する。 ・各種検定の受験者数と合格者数 ・最終的な大学合格実績	・特選/特進コースもそれ以外のコースも大学合格実績は年々向上してきている。 ・模擬試験に関しては、年々全体的に良くなっており、特に成績上位者が増加している。 ・英検2級・準2級の合格者が増加している。 ・スタディサプリと連動した授業もよければ推薦も実施できた。 ・総合学習、スタディサプリ等、eポートフォリオなどを行うにあたり、タブレットは積極的に活用できた。	B	・新入試制度について、共通テストや英語外部試験導入に関して心配したが、生徒が不安なことなく、大学受験に臨めるようになる。 ・アクティブラーニングを中心とした総合学習は完成年度を迎えるので、更に充実させ意欲を高める。 ・授業で週1~2回DM英会話を活用できているが、各自での取り組み回数が増えないので、積極的に活用するよう促す。 ・朝の小テスト、授業中の小テストなどを更に充実させて、基礎学力の定着を徹底する。 ・河合塾の浪人生全員に導入が決めた学習アプリ「モノグサ」を利用して単語力・リスニング力を向上させ英検2級・準2級取得を目指す。	・夏休みなど生徒が登校しているときに、先生方が対応が不十分なきら感じます。先生によって意欲のばらつきがあるのではないのでしょうか		
5	広報活動の充実	・入学者数 300名 (男155名 女145名) 87% 特選Ⅰ類 61名 (男26名 女35名) 27% 特選Ⅱ類 36名 (男20名 女15名) 17% 特選Ⅲ類 40名 (男27名 女13名) 17% 特選Ⅳ類 80名 (男45名 女35名) 27% 特選Ⅴ類 84名 (男45名 女39名) 27% ・単願 177名 併願 123名	上位層獲得の為の方策 ・男子学生確保のため、掲載記事の工夫、講習活動体験開設 ・説明会・個別相談会：北武結果返却時の終日実施 ・オープンスクール：8月2日実施 ・校内個別相談会：17:00~19:00実施 ・上位層獲得が見込まれる京浜東北線浦和・大宮、高崎線朝比呂駅区間の多い地区に担当者を増やし、中学校説明時間短縮 同日、早々に塾説明実施	・入学者数と単願・併願の比率 単願180 併願140 ・奨学生数の増加 ・京浜東北線沿線・高崎線沿線の入学者数増加	・入学者数 417名 (男203名 女214名) 117% 特選Ⅰ類 76名 (男32名 女44名) 27% 特選Ⅱ類 41名 (男24名 女17名) 17% 特選Ⅲ類 80名 (男43名 女37名) 27% 特選Ⅳ類 101名 (男57名 女44名) 37% 特選Ⅴ類 120名 (男68名 女52名) 37% ・単願 282名 併願 155名	A	・上位コース入学者を増やす ・重点地域への広報活動を強化 ・進学に向けた効果的な取り組みを大きく宣伝(上位層進学者への効果的な広報活動) ・タブレット使用の授業風景、DM英会話をの風景の発信など新しい学校紹介TV制作 ・オープンスクールを8月に2回実施し、新設備をアピール(中学生が行動するリスクを減らす)	・保護者会の方より、ご自身が住んでいる地域近隣の高校の生徒の様子、言葉と講習の様子などの話をいただき、浦和近辺に住んでいる方にも評価される浦和麗明高校であったらいいという提案をいただきました。		